

平成26年
7月1日

病害虫発生予報 7月号

茨城県病害虫防除所
茨城県植物防疫協会

平成26年度茨城県農薬危害防止運動期間中です(6/15~9/14)

~農薬を使用する際は、ラベルの記載事項をしっかりと守りましょう~

< 目次 >

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水稲：いもち病(葉いもち)・・・・・・・・・・・・・・・・	1
【防除所レポート】：BLASTAMによる葉いもちの感染好適日の状況について・・・・・・・・	1
水稲：斑点米カメムシ類・・・・・・・・・・・・・・・・	2
【防除所レポート】：6月下旬の雑草地におけるアカスジカスミカメの発生状況に ついて・・・・・・・・	2
ナシ：黒星病，ナシヒメシンクイ（第三世代幼虫）・・・・・・・・	3
【防除所レポート】：ナシヒメシンクイの防除適期の予測・・・・・・・・	4
果樹共通：チャバネアオカメムシ・・・・・・・・	4
【防除所レポート】：夜間温度とチャバネアオカメムシの予察灯への誘殺・・・・・・・・	5

【その他の病害虫】

水稲，サツマイモ，ナシ，ブドウ，夏ネギ，夏秋ナス・・・・・・・・	6
----------------------------------	---

II. 今月の気象予報・・・・・・・・・・・・・・・・

水田において農薬を使用するときは、農薬のラベルに記載されている止水に関する注意事項等を確認するとともに、止水期間を1週間程度とすること。

最新の農薬登録内容は、(独)農林水産消費安全技術センターホームページの「農薬登録情報提供システム」(http://www.acis.famic.go.jp/index_kensaku.htm)で確認することができます。

詳しくは、病害虫防除所へお問い合わせ下さい。

茨城県病害虫防除所 Tel:029-227-2445

予報内容は、ホームページでも詳しくご覧いただけます。

ホームページアドレス <http://www.pref.ibaraki.jp/nourin/byobo/>
フェロモントラップデータ随時更新中

I. 今月の予報

【注意すべき病害虫】

水 稲

1. いもち病（葉いもち）

[予報内容]

発生時期	発 生 量	発生地域
—	平年並～やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、葉いもちの発病度¹⁾は平年並(本年値0.1, 平年値0.2)である。
- ② 6月下旬現在、調査圃場周辺における葉いもちの発生は、平年並～やや少ない。
- ③ 6月におけるいもち病の感染好適日(BLASTAM²⁾による)の出現は、平年より多い(防除所レポート参照)。
- ④ 気象予報によると、向こう1か月の降水量は平年並か多く、日照時間は平年並か少ないと予想され、発生を助長する条件である。

1) 発病度：病斑をもとに算出した数値，最小値は0で最大値は100となる。

2) BLASTAM：アメダスデータを利用した葉いもちの発生予測プログラム

[防除上注意すべき事項]

- ① 稲の葉色が濃い所や水口等を観察し、初発の確認に努める。
- ② 例年、梅雨明けまでは発生が増加するため、現在発生がみられない水田でも今後とも注意する。
- ③ 発生がみられる水田では、防除を実施する。なお、粒剤で防除する際は、必ず湛水状態で薬剤を散布し、薬剤の効果や環境への配慮から1週間は止水して、湛水状態を保つ。その後、生育に応じた適正な水管理にもどす。
- ④ 置苗は、いもち病の発生源となるため、水田及びその周辺に放置せず、持ち出して土中に埋める等の処分をする。

防除所レポート [BLASTAMによる葉いもちの感染好適日の状況について]

- ① 6月中の県内アメダス地点14か所におけるいもち病感染好適日^{*}(BLASTAMによる)の出現日数の合計は、43日(平年値22日)と過去11年中2位である(表)。
- ② 葉いもちの発病の増加は、感染好適条件が出現した日から7～10日後と考えられる。曇雨天が続く等、発病の好適条件が見られる場合はいもち病の発生に注意する。
※感染好適日：当日の葉面湿潤時間が一定以上、前5日間の平均気温が20～25℃。

表 いもち病感染好適条件出現日数(6/1～6/30)

年	H16	H17	H18	H19	H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	平年値
感染好適条件 出現日数	9	7	24	48	9	22	36	22	0	23	43	22

(水稻 続き)

2. 斑点米カメムシ類

予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
やや早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在、有効積算温度から予測したクモヘリカメムシの産卵開始時期は、平年よりやや早い。
- ② 6月下旬現在、水田付近のイネ科雑草におけるカスミカメムシ類の発生地点率は平年よりやや高く、すくい取り虫数は平年より多い（防除所レポート参照）。

[防除上注意すべき事項]

- ① 農道や畦畔等のイネ科雑草は、斑点米カメムシ類の生息場所となるため、除草を徹底する。ただし、出穂期近くになってからの除草は、カメムシ類を水田内へ追い込むことになるので、水稻の出穂2週間前までに終わらせる。
- ② 出穂が周辺よりも早い水田では成虫の飛来が集中しやすいので、発生には十分注意する。
- ③ 出穂期～穂揃期に多数の斑点米カメムシ類を認めた場合は、防除を実施する。

防除所レポート [6月下旬の雑草地におけるアカスジカスミカメの発生状況について]

- ① 6月下旬現在、カスミカメムシ類の一種であるアカスジカスミカメの雑草地における発生は、平年より多い（表）。
- ② 本県における斑点米カメムシ類の主要種は、クモヘリカメムシである。しかし、平成25年（昨年）の本田すくい取り調査では、県南地域においてアカスジカスミカメが40%を占める主要種となった（図）。なお、他県ではアカスジカスミカメが斑点米カメムシ類の主要種となっている地域も多い。

表 6月下旬の雑草地におけるアカスジカスミカメの発生状況

	雑草地におけるすくい取り虫数（頭/10回振り）						発生地点率(%) 全県
	全県	県北	県央	鹿行	県南	県西	
本年	3.4(1)	0 (5-11)	1.9(3)	4.0(1)	2.2(5)	11.1(1)	30(2)
平年	1.4	1.8	0.9	0.4	1.8	2.3	16

※（ ）内は過去11年中の順位

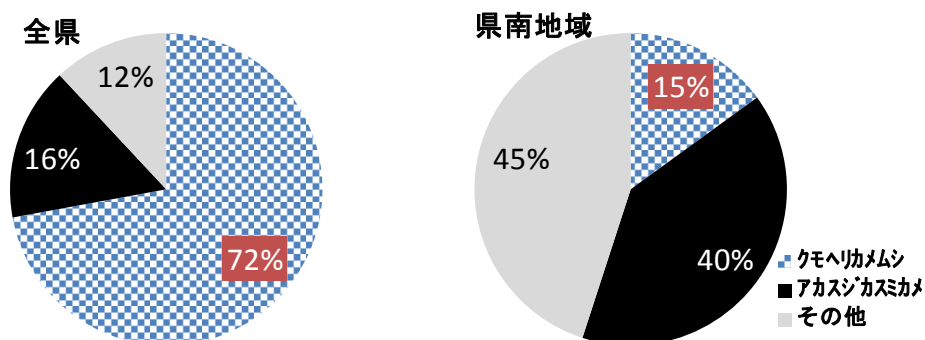


図 平成25年（昨年）の防除所本田すくいとり調査におけるカメムシ主要種の割合

ナシ

1. 黒星病

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在，発病葉率は平年並～やや高く(本年値 1.2%，平年値 0.9%)，発生地点率は平年よりやや高い(本年値 80%，平年値 56%)。なお，発病果率は平年よりやや低い(本年値 0.1%，平年値 0.3%)。
- ② 気象予報によると，向こう 1 か月の降水量は平年並か多く，日照時間は平年並か少ないと予想され，発生を助長する条件である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 発病した果実及び葉は二次伝染源となるため，見つけ次第除去し，土中深く埋める等，適切に処分する。
- ② 薬剤散布は，発病部位を除去した後に行うと防除効果が高い。
- ③ 薬剤は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。

2. ナシヒメシンクイ（第三世代幼虫）

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
早い	やや多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月下旬現在，第二世代成虫の発生時期は，第一世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から，平年より早いと予測できる。
- ② 6月下旬現在，フェロモントラップへの第一世代成虫の誘殺数は，地区予察圃(かすみがうら市，小美玉市)及び土浦市で平年よりやや多い～多く，県予察圃(笠間市)で平年並である。
- ③ 6月下旬現在，被害果率は平年並である。

[防除上注意すべき事項]

- ① 被害果を見つけた場合は，土中深く埋める等速やかに処分し，成虫の発生を防ぐ。
- ② 薬剤は，10a 当たり 300 リットルを目安に丁寧に散布する。圃場の周縁部等，薬液のかかりにくい部分に対しては，手散布等により補正散布を行う。
- ③ 薬剤散布の時期については，下記の防除所レポートを参考にする。

防除所レポート [ナシヒメシンクイの防除適期の予測]

- ① ナシヒメシンクイ第三世代幼虫を対象とした防除適期は、第二世代成虫の誘殺数がピークに達した日の直後(1~2日後)である。
- ② 各地点の第二世代成虫の誘殺最盛期は、第一世代成虫のフェロモントラップへの誘殺最盛期と発育に有効な気温の積算値から予測した。
- ③ 発生時期の予測は6月27日現在であるため、今後の情報は病害虫防除所ホームページを参考にする。

表 調査圃場におけるナシヒメシンクイ第三世代幼虫の予測防除適期

地点	第三世代幼虫の予測される防除適期 ¹⁾		
茨城町	7月20日	～	7月25日
笠間市(旧友部町)	7月16日	～	7月20日
笠間市(旧岩間町)	7月20日	～	7月24日
小美玉市	7月17日	～	7月20日
かすみがうら市	7月11日	～	7月15日
土浦市	7月11日	～	7月15日
筑西市	7月14日	～	7月18日

1) 予測した第二世代成虫の誘殺ピークの1~2日後とした。

果樹共通

1. チャバネアオカメムシ

[予報内容]

発生時期	発生量	発生地域
—	多い	県下全域

[予報の根拠]

- ① 6月第4半旬現在、果樹園に設置した予察灯への総誘殺数は、笠間市及びかすみがうら市で平年より多い(過去11年中2位)。
- ② 一部のナシ及びブドウ圃場で、チャバネアオカメムシの飛来が確認されている。

[防除上注意すべき事項]

- ① カメムシ類は夜温が高いと活動が活発になるため、果樹園への飛来に注意する。果樹園への飛来が多い場合は、薬剤防除を行う。

(平成26年5月28日発表 病害虫発生予察注意報第1号参照)

防除所レポート [夜間温度とチャバネアオカメムシの予察灯への誘殺]

- ① カメムシ類は夜温が高いと活動が活発になり，果樹園に設置した予察灯への誘殺数も多くなる傾向がある（図）。
- ② 夜間の降雨状況によっては，夜温が高くても予察灯への誘殺数は少なくなる場合がある。

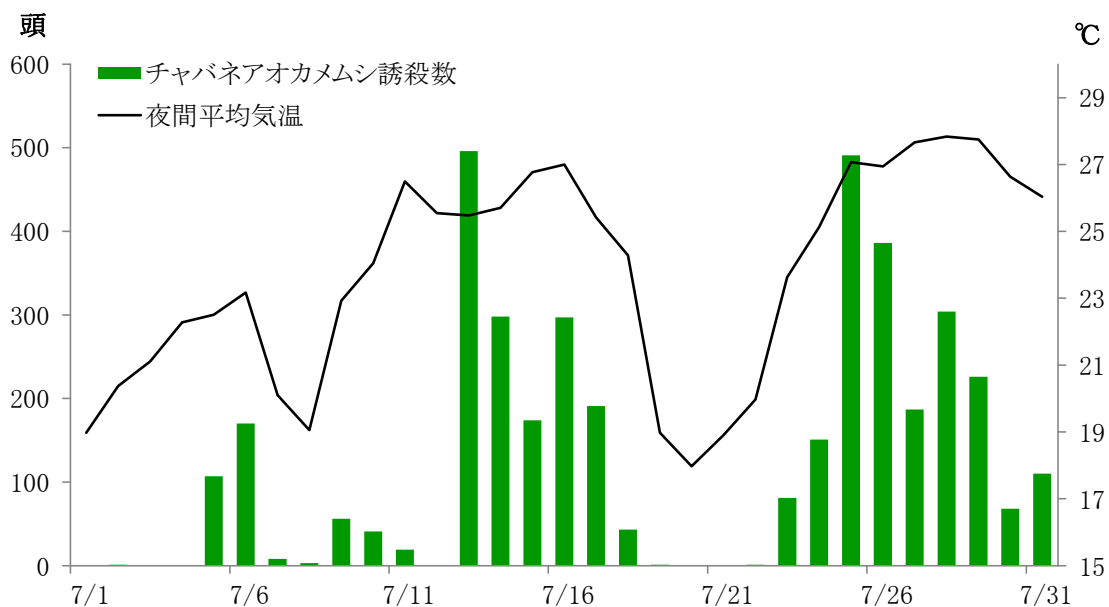


図 カメムシ類が多発生した平成 24 年の夜間平均気温（17 時～翌 7 時）と かすみがうら市に設置した予察灯へのチャバネアオカメムシの誘殺数

【その他の病害虫】

作物	病害虫名	発生予測	発生概況及び注意すべき事項
水稲	縞葉枯病	発生量：やや多い ～多い	6月下旬現在，県西地域において発生を確認している（平成26年6月20日発表 病害虫速報 No.3 参照）。
	イネツトムシ	発生時期：やや早い 発生量：平年並 ～やや多い	6月下旬現在，平年並～やや多い発生である。7月中旬～8月上旬に発生が多い場合には，幼虫が小さいうちに防除を実施する。
サツマイモ	チョウ目幼虫	発生量：やや多い	6月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	イモキバガ (イモコガ)	発生量：やや少ない	6月下旬現在，平年よりやや少ない発生である。
ナシ	アブラムシ類	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
	ハマキムシ類		
ブドウ	褐斑病	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
	晩腐病	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。袋かけ前の防除を徹底する。
	べと病	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
夏ネギ	さび病	発生量：平年並 ～やや多い	6月下旬現在，平年並～やや多い発生である。
	ネギアザミウマ	発生量：やや多い	6月下旬現在，平年よりやや多い発生である。
	ネギハモグリバエ	発生量：平年並	6月下旬現在，平年並の発生である。
夏秋ナス	アザミウマ類 (ミナキアザミウマを除く)	発生量：多い	6月下旬現在，平年より多い発生である。
	ハダニ類	発生量：やや多い ～多い	6月下旬現在，平年よりやや多い～多い発生である。

Ⅱ. 今月の気象予報

関東甲信地方1か月予報

(予報期間 6月28日から7月27日)

気象庁(6月26日発表)

<向こう1か月の気温, 降水量, 日照時間の各階級の確率(%)>

[確率]	要素	予報対象地域	低い(少ない)	平年並	高い(多い)
	気温	関東甲信全域	30	40	30
	降水量	関東甲信全域	20	40	40
	日照時間	関東甲信全域	40	40	20

[概要]

平年に比べ曇りや雨の日が多いでしょう。

<1週目の予報> 6月28日(土曜日)から7月4日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率50%, 高い確率30%

<2週目の予報> 7月5日(土曜日)から7月11日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率40%, 高い確率30%

<3週目から4週目の予報> 7月12日(土曜日)から7月25日(金曜日)

気温 関東甲信地方 平年並の確率30%, 高い確率40%

農薬を使用する際は

- 1 使用する農薬のラベルを必ず確認し, 適用作物, 使用方法, 注意事項等を守りましょう。
- 2 散布時には, 周辺作物に飛散(ドリフト)しないよう注意しましょう。
- 3 農薬の使用状況を正確に記録しましょう。
- 4 使用後は散布器具やホース内等に薬液を残さず, 良く洗浄しましょう。